

ラテックス凝集比濁法

## N-アッセイ **LA CRP-T** ニットーボー

低域から高域までCRPを精度よく正確に測定

**【特長】**

1. 低域から高域まで良好な同時再現性を示します。
2. RF 因子の影響を受けません。
3. 0.01mg/dL から 40mg/dL まで良好な直線性を示します。



健康・快適な生活文化を創造する **Nittobo**



# N-アッセイ *LA CRP-T* ニットーボー

## はじめに

C反応性蛋白（CRP）は肝臓で産出される蛋白で、正常状態では血中に微量にしか存在しませんが、膠原病、感染症、消化器疾患、腫瘍などで血中に現れます。CRPを測定することは、疾患の重症度、経過、予後、治療効果の判定の参考に役立っています。

その測定法としては、免疫比濁法、免疫比ろろ法、ラテックス凝集比濁法が一般的に行われています。

N-アッセイ LA CRP-T ニットーボーは、ラテックス凝集比濁法により血中CRPを定量的に測定する試薬で、直線性、再現性等、優れた性能を有しております。

## 特長

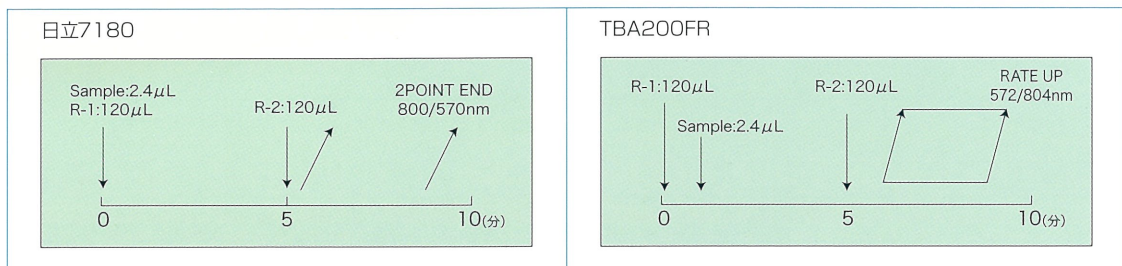
1. 低域から高域まで良好な同時再現性を示します。
2. RF因子の影響を受けません。
3. 0.01mg/dLから40mg/dLまで良好な直線性を示します。

## 測定原理

抗ヒトCRPヤギ抗体を感作させたラテックス粒子に、検体を反応させると、検体中のCRPは、ラテックス粒子上の抗ヒトCRPヤギ抗体と抗原抗体反応を起こします。その結果、ラテックス粒子は凝集しますので、この凝集物を主波長570nm、副波長800nmの吸光度変化量として測定し、検体中のCRPを定量します。

## 自動分析装置への適応例

(各自動分析装置への適応は、別途パラメーターをご請求ください。)



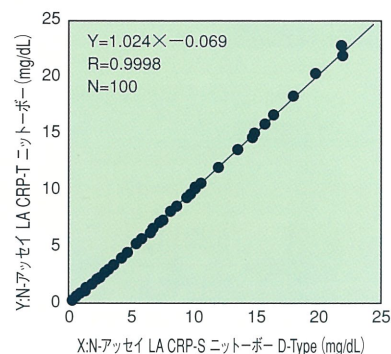


《参考データ》 自社、日立 7180 形自動分析装置にて測定

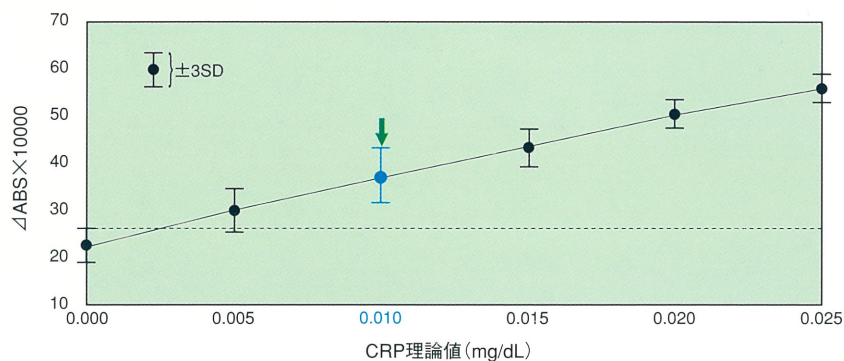
## 同時再現性

	測定値(mg/dL)			
データ数	20	20	20	20
最大値	0.11	0.40	1.16	4.23
最小値	0.10	0.39	1.13	4.14
範囲	0.01	0.01	0.03	0.09
平均値	0.109	0.395	1.145	4.180
標準偏差	0.001	0.002	0.007	0.017
変動係数	1.04%	0.61%	0.57%	0.42%

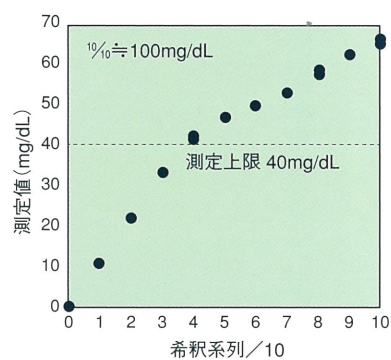
## 相関性



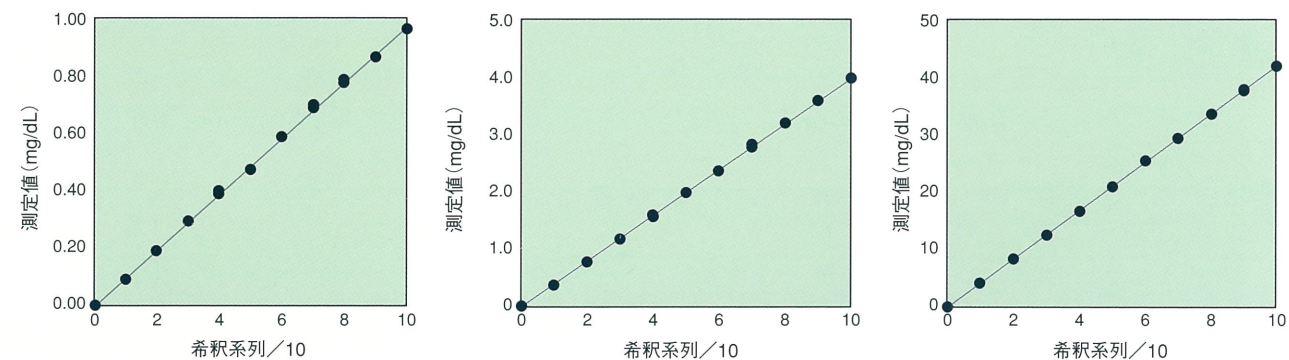
## 検出限界



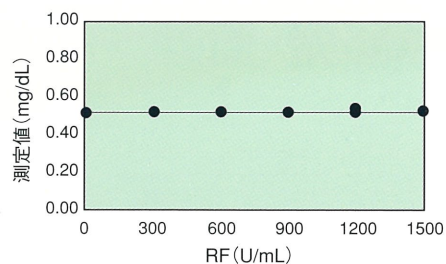
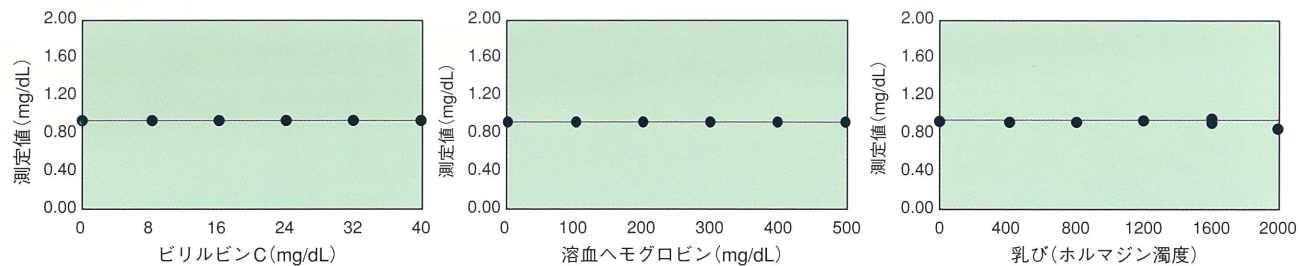
## 抗原過剰域



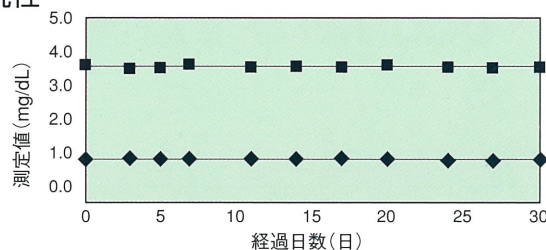
## 直線性



## 共存物質の影響



## 日差再現性



## 製品案内

## 試薬

商品コード	構成	包装	有効期間
15321124	緩衝液 (R-1)	30mL × 4本	1年
15321224	ラテックス試液 (R-2)	30mL × 4本	1年

## 標準液

商品コード	商品名	包装	備考
9592134	N-アッセイ LA CRP-T 用 CRP 標準液 [LA] B-Type	2mL × 6濃度	日立用 0, 0.2, 2, 4, 20, 40 (mg/dL)
9592135	N-アッセイ LA CRP-T 用 CRP 標準液 [LA] C-Type	2mL × 6濃度	日本電子用 0, 0.2, 2, 4, 15, 30 (mg/dL)
9592136	N-アッセイ LA CRP-T 用 CRP 標準液 [LA] K-Type	2mL × 7濃度	東芝、バックマン用 0, 0.2, 1, 2.5, 4, 20, 30 (mg/dL)

## 参考文献

## 参考文献

- (1) 大谷英樹：日本臨床，53(増刊号)，233-236(1995)
- (2) 亀子光明，金井正光：Medical Technology，16(11)，1061-1066(1988)
- (3) 菅野剛史：臨床病理，35(8)，874-877(1987)
- (4) 櫻林郁之助：臨床病理，34(8)，887-892(1986)
- (5) 谷直人：日本臨床，62(増刊号11)，212-216(2004)

製造販売元：**ニッポーメディカル株式会社**

〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字塩島1番地

問い合わせ先 ニッポーメディカル株式会社

TEL.03-4582-5420 FAX.03-3238-4590